

核兵器禁止条約発効へ 行動しよう 声をあげよう

2019年核兵器廃絶へ被爆地の運動の飛躍を

2017年に国連で採択された核兵器禁止条約は、諸国政府と市民社会の共同で実現しました。これまでに69か国が調印し、19か国が批准、昨年12月に国連総会で採択された禁止条約の早期発効をめざす決議には126か国が賛同しました。近い将来の発効が期待されます。非核平和の世論を背景に、朝鮮半島で非核化と平和体制づくりが着実に進んでいます。3回の南北首脳会談と、史上初めてとなる米朝首脳会談で、軍事的緊張はなくなりました。

一方、こうした多数の国々や人々が核兵器のない世界へ行動するなかで、核保有国のアメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の5か国は、核兵器禁止条約に「支持も、署名も、批准もしない」との立場で足並みをそろえています。

驚くのは被爆国日本政府が、禁止条約促進決議に反対票を投じ、被爆者を目の前にして「署名しない」と表明していることです。この姿勢を変えることが緊急に求められています。市民の声と行動が求められています。「ヒバクシャ国際署名」の飛躍が求められています。「命輝く青い地球を守る」共同と行動をひろげましょう。



1月2日長崎原水協平和公園署名



核兵器禁止条約を力に核兵器のない平和で公正な世界の実現を
原水爆禁止長崎県協議会 Gensuikyo news 〒850-0035 長崎市元船町5-11-402
2019/1/4 TEL 095-895-9106 FAX 095-895-9102



講演会「原水爆禁止運動と渡辺千恵子さん」 ～1950年代を中心に～

年末の21日開催された県原水協主催の講演会、10代の若者や平和の旅へ」合唱団や千恵子さんを知る被爆者など29名が参加しました。最初に、長崎総合科学大学准教授の木永勝也さんが、原水禁運動の初期から活動をしていた渡辺千恵子さんに焦点をあて、渡辺千恵子さんの想いや原水禁運動の原点などを講演しました。

講演後、軽食を交えながらディスカッションを行いました。

渡辺千恵子さんと親交のあった長崎被災協の大塚一敏さんや横山照子さん、渡辺さんの半生を題材にした合唱構成詩「平和の旅へ」をつくる際に関わった方などが渡辺千恵子さんとのエピソードが出されました。

若い参加者からも、渡辺千恵子さんの想いに触れながら、これからの核廃絶運動に取り組む必要性を改めて感じたなどの感想がだされました。



核兵器禁止条約、その歴史的な流れをつくりだした被爆者の訴えを学ぶ機会になり、「大変いい企画、定期的で開催してほしい。」とのご意見に応えたい。

年末見舞金をお届けしました。被爆者援護連帯募金にご協力いただいた全国の皆様に感謝です。原爆被害とたたかってこられた平均年齢82歳を超えた被爆者のご健康と核兵器のない世界を願い届けました。個別のお見舞い訪問では会話がはずみます。届けた見舞いに感謝を表し「なんも出来んけど、墓参りに行って花を手向けたい」「今までなんも言わんで来たけど、思い出したくもないけど、原爆のむごさを見たことを語り残したい。手伝ってほしい。」と。被爆者とともに、元気をもらえる行動になりました。

長崎被災協 田中重光会長へ
佐藤事務局長が届けました。



長崎原爆病院 平野明喜院長へ
大矢正人代表理事が届けました。



恵の丘原爆ホーム入所者の方が
思いつきりの笑顔で今年も歓迎
してくれました。
核兵器廃絶へともに！



恵の丘原爆ホーム入所者より
お土産をいただき、常任理事で
民青県委員長の筒井涼介さん。

